

## パンデミック IN 歴史



黒死病の時代のペスト  
医師の図です

パンデミック  
というのは  
「感染症の世界的な大流行を表すことば」  
です。

現在、世界はパンデミックを経験しています。パンデミックというのは「感染症の世界的な大流行を表すことば」です。新型コロナウイルスが原因で、学校や職場など、どこでもコロナショックの影響を感じられます。テレワーク、自宅勤務、オンライン授業など、新型コロナウイルスが広がる前には普及していなかったことが急速に実施されています。

このコロナショックの世界で、簡単なことはなく、これから様々な困難を生じます。世界中の皆さんと一緒に新型コロナウイルスに対して取り組みを進めています。科学者が言うとおり正しい衛生やソーシャルディスタンスをしましょう。

パンデミックが起こることはとても珍しいことですが、歴史の記録に残っているものがいくつかあります。今月の「赤レンガ通信」では、世界の歴史の4つのパンデミックについて特集します。

### 黒死病 (こくしびょう)

(1346年～1353年)

死亡者数: 約7500万～2億人(推定)


地域: 東中西アジア、欧州

読者の皆さん、黒死病について聞いたことがあるでしょうか。ペスト菌(英語: Yersinia pestis)を通じて感染する「黒死病」は14世紀にアジアで始まったそうで、様々な港や国に訪問した船に住んでいるネズミや蚤(のみ)を通じて3大陸に広がりました。この病気は空気や病がある蚤やネズミの咬傷で感染していたので、だれでも、いつでも感染するので恐れられていたようです。それだけではなく、黒死病はとても病状の進行が早い病でした。つまり、寝る前に元気だった人でも朝までに亡くなった場合が多かったようです。

黒死病は明確な「終点」がありませんでしたが、少しずつ、地域が学んだ、感染予防対策を進めました。例えば、港に到着した船に乗っている船員の隔離やソーシャルディスタンスを実施しました。このような予防対策は大きな感染を予防しました。同じ細菌の菌株が今でも存在していますが、現代の衛生や公衆衛生慣行のおかげで、この恐ろしい病の感染のケースは現在、あまりありません。

赤レンガ通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 [http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.htm](http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm)

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。  
編集者: 英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー



## ユスティニアヌスのペスト

(542年～)

死亡者数: 3000万～5000万人

地域: 地中海

歴史に記録された世界初のペスト流行でした。542年に最初に流行してから、225年間に何回も発症し、地中海の東部やコンスタンティノープル市の人口は壊滅的に減少し、東ローマ帝国を弱体化させました。ユスティニアヌスは542年に流行した時の皇帝の名前です。ユスティニアヌス皇帝はペストに感染しましたが、生き残りました。



## 1918年のインフルエンザパンデミック

またの名をスペインかぜ

(1918年～1920年)

死亡者数: 2000万～5000万人

地域: 世界

インフルエンザはこれまでも、毎年発症していますが、1918年のインフルエンザパンデミックは例年とちょっと違いました。アメリカで発生し、第一次世界大戦の戦後世界に急に広がりました。世界中の、感染者5億人のうち、10%～20%が亡くなりました。発症の初めの25週間で2500万人が死んでしまいました。しかし、例年のインフルエンザと比べると、一番興味深い相違点は死亡者です。お年寄りや子供など、免疫系が弱い方は例年のインフルエンザの死亡者として多いですが、スペインかぜの被害者は元気で頑強な大人でした。感染した子供や免疫系が弱い方が生き残りました。




## 後天性免疫不全症候群・HIV/AIDS

(こうてんせいめんえきふぜんしょうこうぐん)

(ピーク2005年～2012年)

死亡者数: 3600万人

1980年代に最初に特定されたヒト免疫不全ウイルス(HIV)は現在でも感染者が多く、ひどい病気です。しかし、現在の科学や医学のおかげで、感染者の死亡率は高くても、以前より減りました。HIVに感染した人は完治・治癒に至ることは現在でも困難であるため、治療を開始すれば一生継続する必要がありますが、治療をすることで、余命を延長できます。造血幹細胞移植で2人の感染者がHIVを治癒された情報が2020年に報告されましたが、この治療は一般的な感染者の治療選択肢ではありません。このパンデミックを終わらせるにはまだ研究や病気の情報が必要です。



赤れんが通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 [http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenza\\_eng.htm](http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenza_eng.htm)

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。  
編集者: 英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー





マスクをしよう



しょうどくしよう



うちですごそう

現代の衛生や公衆衛生慣行のおかげで、パンデミックは以前より珍しくなって、過去より影響は弱くなりましたが、現在の状況を軽く見てはいけません。

外出を自粛している読者の皆さん、もう一つ考えるべきことがあります。歴史家が生活の影響、政治の反応、隣人の反応、世界の反応などを含めた新型コロナウイルスについて個人日記を書くことを勧めています。紙で書くまたはブログで書くなど、様々な方法があります。希望や恐怖を書く時はカタルシスの趣味だけではなく、未来の歴史家のために、様々な生活について新型コロナウイルスの影響の記録が残るためです。



てをあらおう

## 注意点



かんきをしよう

- 手を洗おう
- ソーシャルディスタンスしましょう
- 元気にお過ごしください



赤れんが通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 [http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.htm](http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm)

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。  
編集者：英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー

〒060-8688北海道札幌市中央区北3条西6丁目 011-231-4111 FAX: 011-231-4303



# 北海道JETスポットライト



## 北

海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約300人のJETプログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えていきます！



## Meet Carmen!

こんにちは～

私は留萌管内に派遣されて2年目のJETプログラムの参加者のカルメン・ロックハートです。中等教育の英語を教えることに興味を持ち、ブリティッシュコロンビア大学の最後の学年にJETプログラムに申し込みをしました。私の母親がJETプログラムの参加を勧めてくれました。私は一年間休学し、教室で実習するためのいいチャンスだと思いました。私の実家の母方は日系カナダ人なので、私のゆかりの一部について学ぶいい機会でもありました。

「一年間」と言いましたが、「2年目のJETプログラムの参加者」の矛盾にお気づきでしょうか。私のJETプログラムの体験の繰り返しているテーマは「予定どおり...じゃなかった」です。



### なぜ北海道(日本)へ来たのですか。

ほとんどのJETプログラムの参加者と同じように、私の派遣された地域は完全に予想外の場所でしたが、時々もし希望どおりの地域に派遣だれていたらどうなっていたか考えながらも、ありがたい気持ちでいっぱいでした。私の曾祖父母の実家は鳥取県と和歌山県なので、申し込んだ時は実家の近くである関西地域を希望しました。派遣されるのは北海道の留萌管内だと聞いたとき、びっくりしましたが、関西と逆にあることで話が盛り上がったので、よかったです。

### これまでの北海道の経験はどうか。

日本で初めて一人暮らしの体験をさせてもらいありがたいですが、いい時や悪い時も体験できました。北海道の夏は快適な暑さです。一年目の冬はとて寒く、バンクーバー市のマイルドの冬と比べるととても違っているので、ちょっと大変でした。しかし、近い海や強い風以外に、ブリティッシュコロンビアのオカナガンと比べると、いくつかの類似点に気づくことができよかったです。

人との体験には、期待どおり様々な人がおり、いろいろなことが体験できました。体験や地域について素晴らしいことに快く受け入れてくれた人にたくさん出会いました。一方で、世界中どこでも見られますが、その逆のタイプの人にも会ってしまいました。ほとんどの場合、体験は積極的に行い、好奇心から始まっていた会話からいろいろなトピックについて話したり、新しい友達と会ったり、面白く、すごく体験の幅を広げることができました。

赤レンガ通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 [http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.htm](http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm)

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。  
編集者：英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー

〒060-8688北海道札幌市中央区北3条西6丁目 011-231-4111 FAX: 011-231-4303

## これまで一番印象に残っていることは何ですか。

「一番」を選ぶことは私にはできません。では、JETプログラムで2年目に延長した理由を含めて「これまで一番印象に残っていること」にしましょうか。

来日したときには、JETプログラムは1年間の予定でしたが、延長しました。なぜなら、私の先生や生徒たちは素晴らしいからです。序文で、最初に2校の中学校にALTとして派遣されると報告しました。カナダでも、中学校は中等教育の一部なので、よかったと思いました。しかし、来日の2週間前に、私の担当者から「実は、中学校の2校と小学校の5校に派遣する」と言われました。とてもびっくりしました！

となると、中学生より、小学生のほうが英語に興味を持っています。小学生、特に2年生が、私が学校に設置した「国際ポスト箱」で手紙を私に書いてくれました。時々、高学年の生徒が英語を使って頑張って書いてくれました。生徒たちの英語の興味や英語の教育に影響があると気づいたとき、JETプログラムをもう一年延長することに決めました。

ああ、それと昼ごろのうるさいサイレンを初めて体験したことがとても「印象に残っていること」です。

## 住んでいる地域の好きなのところは何ですか。

夜空、日没、嵐の後の雲、食事の幅広い選択肢、フレンドリーな人々、時々見られる狐、秋の上旬に河口に集まる鮭、群れで騒いでいる鳥(タイプしたとき、渋いかなと思ったが、面白い、ごめんね、通訳者さん)や毛布のような雪がかぶっている畑から沈黙まで。寒い夜にこたつの中に入っていること、円滑な湖の面から照り返す日光、海風で育っている植物の匂い、海から飛び入る飄々たる風の歌...それと、真剣な話をしている時に遠い畑から最高のタイミングで聞こえる牛の「モー」という鳴き声。

これら以上のことがこの地域に存在している。それも短い期間でしたが、この地域を「私のホーム」と呼ぶことができます。



赤れんが通信のバックナンバーは以下のリンクにてご覧ください。 [http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.htm](http://pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.htm)

北海道総合政策部国際局国際課国際交流室により発行されています。  
編集者：英語圏国際交流員 マレイナ・マコヘニー